

2011年2月17日  
2012年3月30日(Ver3.0.0)

## 鋼船規則C編向け計算ソフトウェア “PrimeShip-HULL(Rules)/NK Rule”について

一般財団法人 日本海事協会

### はじめに

鋼船規則 C 編に対応した本会の計算ソフトウェア「PrimeShip-HULL(Rules)/NK Rule」について、その概要、所要環境、お申し込み方法などをご案内申し上げます。

### ソフトウェア概要

#### 対象船種

PrimeShip-HULL(Rules)/NK Rule は、次の3つの船種に対応しております。

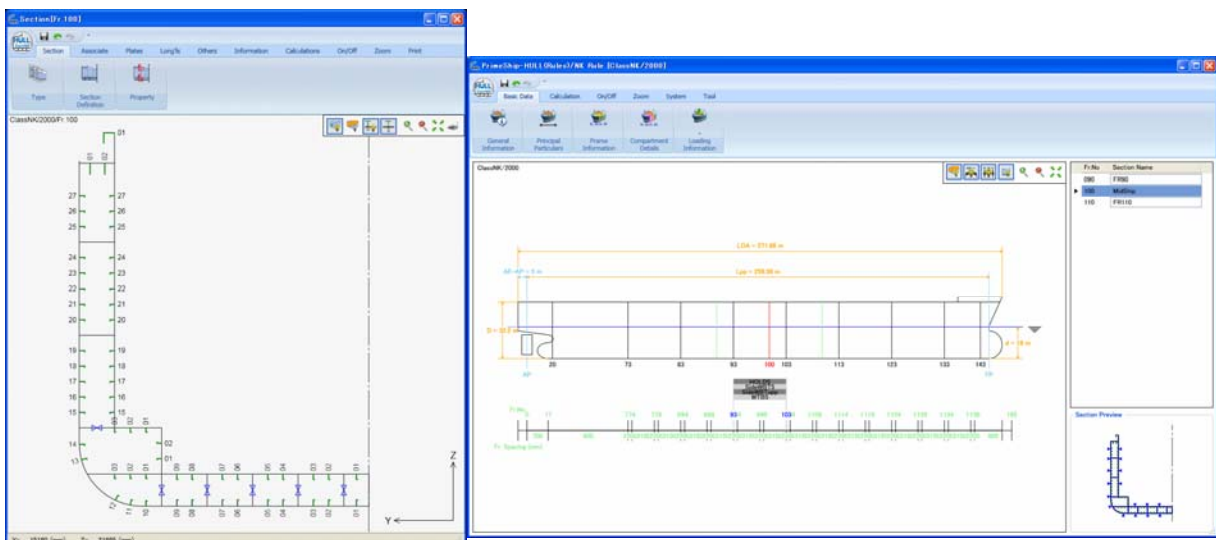
- 長さが90m以上の単船側及び二重船側構造の一般貨物船
- 長さが90m以上のコンテナ運搬船
- 長さが120m以上の鉱石運搬船

#### システム構成

計算ソフトには、算式計算ソフトです。

- 算式計算ソフト(Rule Calculations)

船体横断面を入力し、腐食控除を考慮し、船体横断面計算、縦強度評価、局部強度評価、座屈強度評価を行い、規則適合に必要な情報とレポート機能を提供します。



### 提供条件

本計算ソフトウェアの提供条件を以下に示します。提供を希望される方はこれらの条件をご了承のうえ、添付のお申し込み用紙によりお申し込みください。

## 提供先

鋼船規則 C 編により船舶の構造強度評価を行おうとしている本会顧客の皆様に、システム本体及びサポートを無償で提供致します。

## 使用条件

使用に際しては、下記にご留意ください。

- 1) 本ソフトウェアを申込者以外の第3者への貸与、譲渡、再配布等は禁止致します。
- 2) 本ソフトウェア全体あるいは一部を鋼船規則 C 編に基づいた構造強度評価以外の目的で使用することを禁止します。
- 3) 本ソフトウェアを改ざんして使用することを禁止します。
- 4) 本ソフトウェアの使用により知りえたノウハウ、データ構造など技術情報の第3者への提供を禁止致します。
- 5) 本ソフトウェアを使用することによって発生する不利益等に関して、本会はその一切の責任を負いかねます。

## サポート

ユーザー様に提供するサポート内容は、以下のとおりです。

- 1) 各システムの使用方法に関する技術的相談。
- 2) 規則の改正、バージョンアップ等による各システムのアップデート
- 3) 不具合などによる修正

## 所要環境

本ソフトウェアを使用するためには、次の環境が必要です。

項目	算式計算ソフト
基本 OS	Windows XP, Vista (32bit)
CPU クロック	Intel Celeron 2GHz 相当以上
メモリ	1GB 以上
HDD 空き容量	2GB 以上
ディスプレイ	1024x768 ドット以上の解像度
必須アプリケーション	MS-Excel 2003, Excel 2007, Excel 2010

## 申込書送付先及び問合せ先

一般財団法人 日本海事協会 管理センター 船体部

電話: 03-5226-2017/FAX: 03-5226-2019 / E-Mail: [hld@classnk.or.jp](mailto:hld@classnk.or.jp)

## 所有権の表示

PrimeShip-Hull(Rules)/NK Rule の所有権は、一般財団法人日本海事協会にあります。

以上

## PrimeShip-HULL(Rules)/NK Rule アップデート情報

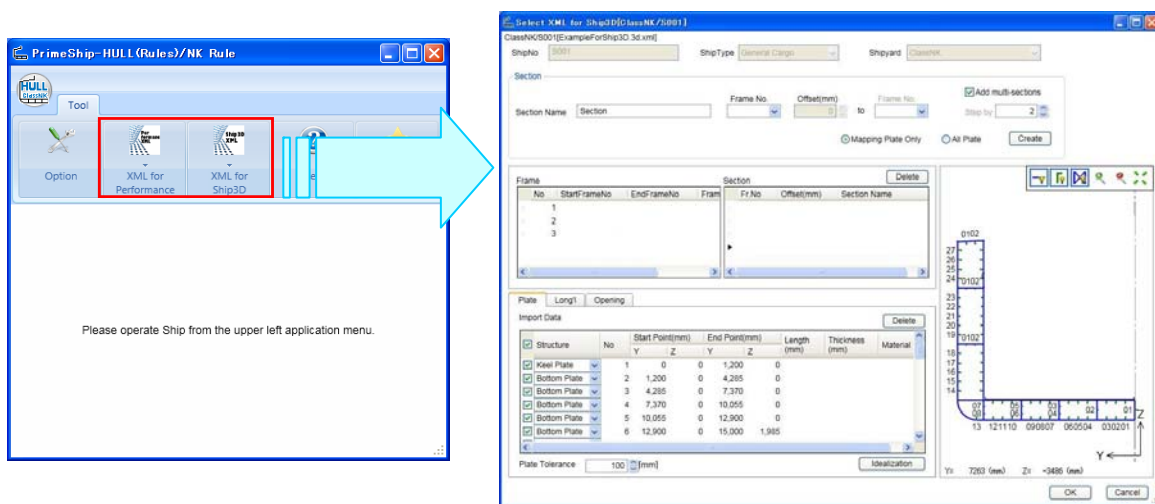
Ver.3.0.0 (2012年3月30日)

### 部材寸法のインポート/エクスポート機能の新設

#### 3次元CADおよびPrimeShip IPCAとのインターフェースプログラムの追加

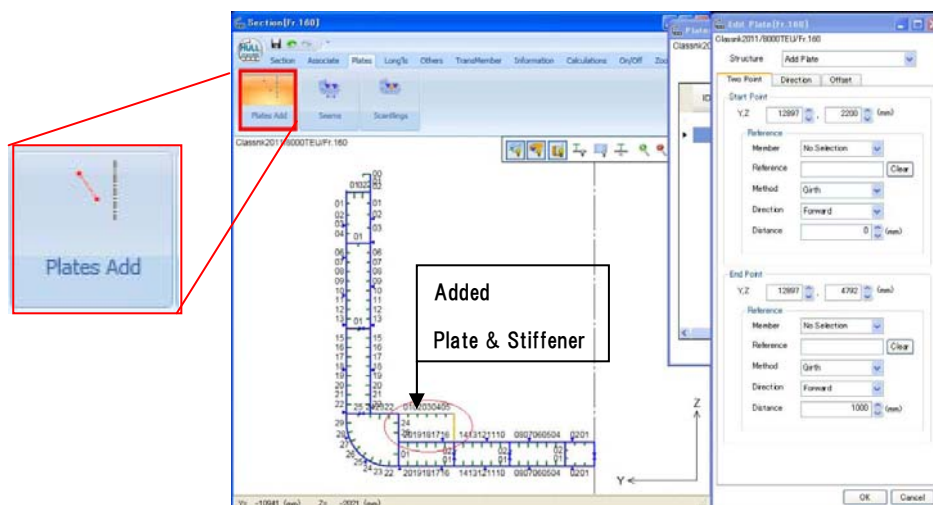
3次元CADおよび本会開発の船舶性能計算プログラム「PrimeShip IPCA」で作成した船舶データをインポート/エクスポートする機能を追加いたしました。

3次元CADデータからは、主にSectionの寸法情報をインポート/エクスポートし、本ソフトウェアで実施した部材計算結果をCADデータに反映することが可能となりました。PrimeShip IPCAのデータからは、船の主要目、Frame/Bulkhead情報、区画情報等をインポートすることが可能で、船の情報入力の軽減が可能となりました。



### 自由度の高い断面情報入力機能

システムの横断面入力機能を強化し、既存のテンプレートによる横断面に更に板材および骨材を追加できるよう新規ボタンを追加し、自由度の横断面に対応するよう改良を行いました。



## Trans 部材の寸法入力機能

縦強度部材に加えて、横強度部材についても板厚、鋼種、開口等を入力する機能を設け、部材計算時の入力を軽減するよう機能向上を行いました。今後、骨部材等への機能拡張を計画しております。

